

尊敬する清水宏先生 — ご退官おめでとうございます！

山梨大学 学長 島田 眞路

清水宏先生とは私の留学（1983～1987）直後、東大の先輩の先生から慶応義塾大学を代表する秀才と紹介された。お互い年齢を確認しあって私が2年先輩と分かり、なぜかほっとしたのを思い出す。先生は研修医時代からこのように目立っておられたが、先生がその実力を如何なく発揮されたのは北大教授就任がきっかけだったように思う。就任時、「日本一、世界一の教室を目指す」と豪語されていたのを思い出す。私を含め教授就任時、このような挨拶をするが、<言うは易し>ということで、ほとんどが挫折することになる。ただ、清水先生は名実ともにこれを実現された。まず、沢村大輔先生を函館市立病院から引き抜かれ、助教授にされた。秋山真志先生が講師として帝京大市原から赴任された。これで最強の体制が整ったものと思われる。私も JSID 中心に活動していたので、北大の研究の発展をまのあたりにしていたが、凄まじい勢いであった。The best paper of the year である皆見賞や最優秀研究者賞である JSID 賞は、北大の独擅場であったような気がしている。研究だけでなく、臨床面でも先生ご自身で執筆されている「あたらしい皮膚科学」は最も人気のある教科書となっている。名実ともに日本一の皮膚科医となられたものと考え

る。
写真は私が会長を務めた IID2008（京都）のときのものである。JSID ではもちろん助けをいただいたが、私が日皮会の理事長になってからも陰に陽に素晴らしいご助言をいただいた。本当にお世話になりました。ここに深甚の謝意を表してご退官のご挨拶といたします。



IID 第5回国際研究皮膚科学会

(2008年5月14日～17日 国立京都国際会館)



IID2008会頭の先生方と 左2番目よりProf.Amy Paller(SID)、
Prof.John McGrath(ESDR)、浅島誠先生 (日本学術会議 副会長)



左より清水宏先生、天谷雅行先生、Prof.Carlo Pincelli